

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	国立陽明交通大学におけるサマーコースへの参加と研究発表
氏名 Name	徳富 芽衣
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	工学研究科高分子化学専攻 修士課程2年
渡航国 Country	台湾
渡航日程 Travel schedule	2025年6月15日 ~ 2025年6月18日

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航の目的は、2025年6月15日から18日の4日間、台湾新竹市にある国立陽明交通大学(NYCU)で開催された「The 12th International Summer Course on Emergent Functional Matter Science」(以下、サマーコース)に参加し、研究発表を行うことであった。これにより、①自身の研究成果について積極的に議論し、研究を発展させること、②現地の研究者や学生と交流することを目的とした。本サマーコースは、京大の学生、教授とNYCUの学生、教授および教員、聴講者が参加した。



写真1. NYCUの様子

成果 Outcome

サマーコースは6月16日から17日の2日間開催され、京大教授6名の90分の講演と京大の学生10名、NYCUの学生10名の計20名の研究発表(12分)から構成された。京大の教授陣の講演は、普段同じキャンパスに所属しているが、90分濃密な研究発表を聴講する機会がなかったため、非常に貴重な時間であった。光化学と一口に言っても、光触媒から太陽電池、有機反応開発や機能性材料と、多岐にわたる分野の最前線の発表を聴講することができた。自身の研究発表に関しては、初めて国外で口頭発表を行ったため、非常に有意義であった。質疑応答では、NYCUの先生から材料の繰り返し性に関して意見をいただいた。学生の発表も有機化学の全合成から物理化学、デバイス等幅広い分野から参加していた。どの発表も洗練されており、新たな知見を得たと同時に自身の研究の立ち位置を確認することができた。



写真2. Department of Applied Chemistryの建物前での集合写真(学生)

夕食では、NYCUの学生とレストランに行き、交流を深めた。NYCUの研究室の生活スタイルや博士号に至るまでのプロセス、修士・博士卒業後のキャリアなどについて聞くことができた。また、最終日の夕食後には、NYCUの学生と大学周辺の観光とナイトマーケットに連れて行っていただいた。本渡航は、4日間という短い期間であったが、研究発表だけでなく台湾の文化も体験することができた。



写真3 ナイトマーケットの様子

今後の展望 Prospects for the future

本渡航は、今後の修士課程および博士課程で研究を行うにあたり、非常に有意義な経験となった。研究に対する興味関心は国を問わないことを現地で改めて実感したとともに、今後研究活動を行ううえで国際的にコミュニケーションを取る大切さを学んだ。今回サマーコースで発表した研究成果に関しては、追加データを取ったのちに査読付き学会誌に投稿する予定である。さらに、修士論文発表および博士課程での研究においてアイデアを洗練させる。

最後に、本渡航に際してご支援いただきました京都大学大学院教育支援機構に厚く御礼申し上げます。